

地域包括ケア時代の 薬局・薬剤師の役割



ファルメディコ株式会社
大阪大学大学院医学系研究科
統合医療学寄附講座特任准教授
医師・医学博士 狭間 研至

第34回 行動できる薬剤師になるための3つのポイント

**今こそ変わりたいと思っている薬剤師が
実際に行動に移すために注意すべきこと**

2018年度調剤報酬改定の影響も、徐々に明らかになってきました。

思い返せば、薬学教育6年制への移行から始まり、地域包括ケアシステムの提言、さらには、患者のための薬局ビジョンの公開など、薬局・薬剤師を取り巻く環境は大きく変わってきています。その上で、ビジネスモデルを根幹から変えるような調剤報酬改定の施行。「今までいろいろと考えてはきたけれど、今回ばかりは本当に変わらないと！」と思っている薬剤師は増えているのではないかと思います。

そんな“行動したい薬剤師”に、仕事柄たくさんお目にかかってきました。

何度かお目にかかったり、お話ししたりしているなかで、本当に行動して自らを、そして周囲を変えていく薬剤師がいる一方で、結果的には何も変えることができない薬剤師もいるように感じています。

“行動できる薬剤師”と“行動できない薬剤師”。この両者の素質や学力、技術には実は差はないと思います。ちょっとした違いが、結果を大きく変えるのだと思いますが、大別すると以下の3つになると思います。

1. リスクを考えすぎない

今までにない行動をしようとする、やはりリスクに対する不安が生じます。もちろん、うまくいかないこともあるでしょうし、思わぬ痛手を被ることもあります。ただ、これと考えすぎると行動できなくなります。そんなときには、現状を変えないままに過ごすリスク、すなわち行動しないリスクを考えることが重要になります。

2. 行動せずに済むストーリーを作らない

人間の頭はよくできたもので、できない理由を説明

することは本当に上手にできます。いわば、誰しも、そして何より自分自身を納得させるストーリーを作ることができます。これを考えると、本当に行動できなくなります。できない理由ではなく、できる方法を考えるようにしたいものです。

3. 準備万全を目指さない

新しいことを行うためには、準備万全な体制で臨みたいというのは当然の考えです。丸腰で突っ込んでいくほど危険なことはありません。しかし、万全を期するために準備をし続けることで、行動するタイミングを失うことがあります。完璧な準備というものはありません。準備万全を目指さず、臨機応変での対応力を磨くことが大切です。

これら3つのポイントに注意をしていくことは、実際に行動に移す際の最後の一押しの力を得ることができます。

そして、いったん走りだしたら、あとは走りながら体裁を整えれば良いのです。

**行動するタイミングを失う前に
まずは“飛んでみる”**

私自身、薬剤師がバイタルサインを活用するとか、在宅医療の分野で活動の場を広げるとか、最近では、病院や薬局の連携を薬剤師主導で進めるとか、いろいろな活動をしてきていますが、いずれも、リスクを考えすぎたり、行動せずに済むストーリーを作ったり、はたまた準備万全な体制を目指したりはしていません。

行動する前にはいろいろ考えますが、ある程度までくれば、「えいやっ」と行動する。いわば、“考える前に飛ぶ”という姿勢が大事なのではないかと思います。

ぜひ、あなたも行動してみてください。きっと自分が、そして周囲の環境が変わっていくと思いますよ。